

津田川口

津田川口ハ更ニ市街ニ接近シ且ツ他物ノ庇蔭ヲ享ケテ海風暴撃ノ憂較少シ、其他適用ノ諸点ニ至テハ別宮川口ニ劣レル甚々遠シ是レ畢竟此川口ヨリ上流ニ溯ルヘキ潮路絶エタルト勝浦川ヨリ流出スル砂礫ノ甚太シキトノ不利アレハナリ。前ノ第三十五兼及ヒ三十六葉ヲ参見セラレヨ
今其沙灘ヲ浚深センガ又タ其流利ヲ整理センガ潮水威力ナシ專ソ一旦浚削セシ深サヲ久シク保続セシムルニ足ラン乎
若シ勝浦川ノ妨害ヲ除クヲ得ハ則チ津田ニ一港ヲ設クヘシトス假使ヒ然ルモ猶現今ノ川口ヲ用ヅ可ラズ更ニ一地ヲ千葉山ノ北沙灘ノ右ニトスバシ。但其所ト虽凡水工設置維持ノ備ハ復タ缺ク可ラサル所ノ者ナリ

小松濠

我津田港ノ改良ヲ計リ桂川ヲ他ニ移スニ容易キノ道アリヤ否ヲ探窮セン為七月一日徳島ノ南ニ出ツ時ニ邊マ小松湾ニ近ツケリ我ハ曾テ此港アルヲ耐カホリシナリ

此處ニ擁護
少シ

参見、参考に見る

等ノ、どうしても

假使ヒ、たとひ

探窮、さきりものゝ。探求

津田川口

津田川口は、(別宮川より)さらに市街地に近く、また他の物の陰になるので、海風を直接受けることは少ない。その他の諸点においては、別宮川口より甚だしく条件は劣る。これは、結局この川口より上流にさかのぼる潮路がないことと、勝浦川から流出する砂礫が甚だしいという不利な点があるからである。前※の三五枚目と三六枚目を参照にされたい。

いまその沙灘を浚深するか、その流れを整理しなければ潮流の威力はない。一旦浚えた深さを長期間にわたってどうして維持することが出来るようか。

もし勝浦川の流出物を除くことができるならば、津田に一つの港を建設すべきである。もしそうしても(その港の位置は)、現在の川口を使うことはできない。その地は千葉山(芝山)の北、沙灘の右岸とすべきである。またその場所であっても港湾施設の設置・維持のために備えを欠かすことは出来ない。

小松濠

津田港の改良を計り、桂川(勝浦川)を他に移す簡単な方法があるかどうかを、調査するため、七月一日徳島の南に行った時、たまたま小松島湾の近くに行った。私はかつてこの港があることを聞か

※三五枚目と三六枚目
本復命書では五六ページ